

[参考資料・リリース日本語訳]

報道関係各位

2003年7月24日

ノバルティス 2003 年度上半期業績を発表 堅調な業績達成で引き続きマーケットシェアを拡大

- バーゼル発、2003年7月21日 -

**主要財務データ
2003 年度上半期**

	2003 年度上半期			2002 年度上半期			前年比	
	百万 ドル	億円	対売上%	百万 ドル	億円	対売上%	ドルベース	現地通貨 ベース
グループ全体の売上	11 924	14 309		9 935	11 922		20	12
営業利益	2 814	3 377	23.6	2 418	2 902	24.3	16	
純利益	2 379	2 855	20.0	2 350	2 820	23.7	1	
フリーキャッシュフロー	657	788		258	310		155	
1 株当たり利益 (スイスフラン・円)	0.96USD	115.2 円		0.92USD	110.4 円		4	

2003 年度第 2 四半期 (4 ~ 6 月)

	2003 年度第 2 四半期			2002 年度第 2 四半期			前年比	
	百万 ドル	億円	対売上%	百万 ドル	億円	対売上%	ドルベース	現地通貨 ベース
グループ全体の売上	6 203	7 444		5 193	6 232		19	11
営業利益	1 463	1 756	23.6	1 332	1 598	25.6	10	
純利益	1 316	1 579	21.2	1 286	1 543	24.8	2	
フリーキャッシュフロー	723	868		549	659		32	

換算レート：2003年 1米ドル = 120円、2002年 1米ドル = 120円

本リリースで用いられている日本円表示の金額は、すべて便宜的に2003年、2002年ともに1ドル = 120円の為替レートで米ドルを日本円に換算したものである。これらの換算金額は、このレートまたはその他のレートで米ドルの額を実際に日本円に換えられる額を示すものと解してはならない。

- グループ全体の売り上げは20%増。医薬品ビジネスは市場の伸びを上回り18%増。サンド社(ジェネリック)は、87%増と飛躍的な成長を達成。
- グループ全体の営業利益は、研究開発への投資拡大があったものの16%増を達成。
- 魅力的なライセンス・インの機会を獲得。Idenix, Regeneron および Enablex の Deal が成功裏に完了。

- フリーキャッシュフローは 155% 増。純利益は 1% 増、1 株当たり利益は 4% 増を達成。

パーゼル発、2003 年 7 月 21 日

ノバルティスの会長兼最高経営責任者のダニエル・バセラは 2003 年度の上半期および第 2 四半期のグループ全体の業績について、次のように述べています。「私たちは、一貫した戦略によって、引き続き二桁の成長とマーケットシェアの拡大という優れた業績を達成できたことを非常にうれしく思います。今年の後半についても、研究開発力をさらに強化し、革新的な医薬品を患者さんに提供するという戦略をサポートするための利益を生みだせる、堅調な売り上げの伸びを引き続き達成できると見込んでいます」

部門およびビジネスユニット別売り上げ

2003 年度上半期

	2003 年度上半期		2002 年度上半期		増減	
	百万 ドル	億円	百万 ドル	億円	ドルベース (%)	現地通貨 ベース (%)
医薬品	7 600	9 120	6 445	7 734	18	10
コンシューマーヘルス	4 324	5 189	3 490	4 188	24	15
サンド(ジェネリック)	1 463	1 756	784	941	87	71
OTC	830	996	712	854	17	6
アニマルヘルス	339	407	313	376	8	2
医療用栄養食品	401	481	352	422	14	1
乳幼児用栄養食品	664	797	668	802	-1	2
チバビジョン	627	752	550	660	14	5
コンシューマーヘルス(継 続)	4 324	5 189	3 379	4 055	28	19
健康機能性食品(分離)			111	133		
合計	11 924	14 309	9 935	11 922	20	12

2003 年度第 2 四半期 (4 ~ 6 月)

	2003 年度第 2 四半期		2002 年度第 2 四半期		増減	
	百万 ドル	億円	百万 ドル	億円	ドルベース (%)	現地通貨 ベース (%)
医薬品	3 991	4 789	3 377	4 052	18	10
コンシューマーヘルス	2 212	2 654	1 816	2 179	22	14
サンド(ジェネリック)	702	842	399	479	76	59
OTC	429	515	372	446	15	9
アニマルヘルス	182	218	163	196	12	5
医療用栄養食品	211	253	189	227	12	-1
乳幼児用栄養食品	357	428	345	414	3	5
チバビジョン	331	397	295	354	12	3
コンシューマーヘルス(継 続)	2 212	2 654	1 763	2 116	25	17
健康機能性食品(分離)			53	64		
合計	6 203	7 444	5 193	6 232	19	11

部門およびビジネスユニット別営業利益

2003 年度上半期

	2003 年度上半期			2002 年度上半期			増減
	百万 ドル	億円	対売 上%	百万 ドル	億円	対売 上%	現地通貨 ベース (%)
医薬品	2 112	2 534	27.8	1 864	2 237	28.9	13
コンシューマーヘルス	664	797	15.4	458	550	13.1	45
サンド(ジェネリック)	257	308	17.6	113	136	14.4	127
OTC	134	161	16.1	77	92	10.8	74
アニマルヘルス	40	48	11.8	54	65	17.3	-26
医療用栄養食品	36	43	9.0	16	19	4.5	125
乳幼児用栄養食品	118	142	17.8	120	144	18.0	-2
チバビジョン	89	107	14.2	62	74	11.3	44
部門別管理費	-10	-12					
コンシューマーヘルス(継 続)	664	797	15.4	442	530	13.1	50
健康機能性食品(分離)				16	19		
コーポレート	38	46		96	115		
合計	2 814	3 377	23.6	2 418	2 902	24.3	16

2003 年度第 2 四半期 (4 ~ 6 月)

	2003 年度第 2 四半期			2002 年度第 2 四半期			増減
	百万 ドル	億円	対売 上%	百万 ドル	億円	対売 上%	現地通貨 ベース (%)
医薬品	1 012	1 214	25.4	1 003	1 204	29.7	1
コンシューマーヘルス	387	464	17.5	250	300	13.8	55
サンド(ジェネリック)	145	174	20.7	58	70	14.5	150
OTC	82	98	19.1	45	54	12.1	82
アニマルヘルス	17	20	9.3	29	35	17.8	-41
医療用栄養食品	16	19	7.6	10	12	5.3	60
乳幼児用栄養食品	73	88	20.4	61	73	17.7	20
チバビジョン	60	72	18.1	39	47	13.2	54
部門別管理費	-6	-7					
コンシューマーヘルス(継 続)	387	464	17.5	242	290	13.7	60
健康機能性食品(分離)				8	10		
コーポレート	64	77		79	95		
合計	1 463	1 756	23.6	1 332	1 598	25.6	10

グループ全体の売り上げは 20% 増 (現地通貨ベース :12% 増) の 119 億ドル

グループ全体の上半期の売り上げは、特に医薬品 (18% 増) とサンド (ジェネリック : 87% 増) の堅調な業績に牽引され、米ドルベースで 20% 増となりました。現地通貨ベースでは 12% 増で、そのうちの 8% は販売量の増加によるものです。買収したビジネスも好調で、特にレク社において顕著でしたが、価格上昇により 2% 増加しました。現地通貨から米ドルへのレート換算による影響は売り上げの 8% 増に貢献しました。

グループ全体の営業利益は 16% 増の 28 億ドル

生産性の向上と製品ミックスの改善によって売上原価が 1% 減少し、対売上比は 23.4% となりました。研究開発費については、魅力的なライセンス・インの機会の獲得と米国マサチューセッツ州ケンブリッジの新研究所への継続的な投資によ

り、37%と大幅に増加し対売上比は15%となりました。主力ブランドの販売促進と新製品の上市のための販売費が、売上げの伸びをわずかに下回ったため1%減少し、対売上比は32.1%となりました。その結果、上半期の営業利益は16%増となり、一方、営業利益率は第1四半期レベルを維持し23.6%でした。

純金融収益

通貨管理と債券投資が成功裏に行われた結果、非常に困難な金融市場環境と金利下落の中で、純金融収益は2億9,900万ドルとなりました。この結果は予想通り、流動資金がより高いレベルにあった昨年上半期を下回るものとなりました。

純利益

第2四半期での医薬品におけるライセンス・インのディールへの一時的な投資と、2003年に報告された、第1四半期での関連会社ロシュ・ホールディング AGの損失に関わる2億8,700万ドルの一時的な費用により利益成長が減少し、上半期の純利益は1%増の24億ドルとなりました。ロシュ関連の影響を除くと、上半期の純利益は13%増となります。

2003年度の見通し(予想しがたい要因を除く)

主要マーケットの成長が減速しているという徴候があるにもかかわらず、医薬品の主力ブランドの引き続いてのダイナミックな業績と新製品の上市に牽引され、ノバルティスの2003年のグループ全体ならびに医薬品の売上げは、現地通貨ベースで一桁台後半から二桁台前半の成長が見込まれています。

医薬品では、高水準の成長を維持するために、積極的な投資戦略を実行していきます。そのため2003年は、研究開発には売上げの伸びを引き続き大幅に上回る投資が計画されています。これを支えているのは、患者さんに新たな治療法を提供するというグループの強いコミットメントです。

純金融収益は、減少した流動資金と困難な経済環境を反映して、前年レベルを下回ることが見込まれています。しかし、堅調な業務パフォーマンスにより、予想しがたい要因を除けば、通年の営業利益と純利益はともに前年レベルを上回ると見込まれています。

セクター別業績

医薬品部門

売上げ

中核である医薬品ビジネスの上半期および第2四半期の売上げは、予想通り引き続きグローバル市場の伸びを上回り、18%増(現地通貨ベース:10%増)と二桁台の成長を達成し、上半期の売上げは76億ドルとなりました。

堅調な売上げに牽引され、医薬品は主要な米国市場(売上げは14%増)と世界第二位の市場である日本市場(売上げは23%増、現地通貨ベース:13%増)、そしてヨーロッパでも、さらにマーケットシェアを拡大しました。最新データ(IMS、5月)によると、ノバルティスの全世界のヘルスケア・マーケットにおけるトータルシェアは、去年の3.9%から4.3%に拡大しました。

堅固なブランド・マネジメントが成長の勢いを維持し、急速に成長を続ける循環器領域（39%増、現地通貨ベース：32%増）とオンコロジー領域（38%、現地通貨ベース：27%）の主力製品である、「ディオバン」「ロトレル」「レスコール/ローコール」「グリベック」「ゾメタ」が、さらに領域でのリーダーシップを強固なものとししました。

呼吸器・皮膚科および神経系領域においても、「エリデル」「トリレプタール」「エクセロン」「コムタン」の著明な貢献が業績を牽引しました。

多くの新製品が上市段階にあり、ノバルティスは幅広いポートフォリオを有しています。そしてその製品の83%が、2006年まで特許で保護されています。過去5年以内に上市された新製品の売り上げが総売上にも占める割合は、昨年上半期の19.6%から24.5%に上昇しました。

営業利益

医薬品の上半期の営業利益は21億ドルに達しました。予想通り、売り上げの伸びを下回りましたが、主な理由は、創薬とライセンス・インのディールへの高水準の投資です。米国マサチューセッツ州ケンブリッジの新たなバイオメディカル・リサーチセンターの設立はかなりのスピードで進められ、研究スタッフも約300人に達しました。さらに、いくつかの魅力的なライセンス・インと買収のプロジェクトも完了しました。特に注目すべきなのは、Idenix、Regeneron、EnablexおよびLucentisで、一時金としての費用は総額1億2,600万ドルにのぼりました。この結果、上半期の研究開発費は35%増で対売上比は19%となり、業界トップレベルになりました。販売費については、リソースが主にヨーロッパでの「エリデル」の上市と「ゼルノーム」に関わる過敏性腸症候群の啓発、およびマーケティング・キャンペーンなど、包括的な製品上市活動に集中されたため、販売費の増加はわずかに留まり、対売上比は34%でした。一方、生産における継続的な生産性の向上と製品ミックスの改善により、売上原価がさらに1.1%削減され、対売上比は14.5%となりました。一般管理費には、1月の非中核製品ラインからの出資の引き揚げによる、1億7,800万ドルの一時的な増加分が含まれました。全体として営業利益率は、昨年上半期の28.9%に比べ、27.8%となりました。

ハイライト

プライマリーケア

2002年、高血圧症治療薬「ディオバン」（45%増、現地通貨ベース：37%増、米国：35%増）は、米国、日本、ヨーロッパにおけるダイナミックな売り上げと、ドイツ（160/12.5）とフランス（160/25）における「コディオバン」の高容量製剤の上市の成功に牽引され、降圧薬市場および急速な成長を続けるアンジオテンシン受容体ブロッカー（ARB）のカテゴリーにおけるマーケットシェアをさらに拡大しました。「ディオバン」は卓越した効果と心臓保護作用で、いまや世界の「ARB」のリーダーとなり、そのブランドのポジションをさらに強固なものとししました。

高コレステロール血症治療薬「レスコール/ローコール」（31%増、現地通貨ベース：20%増、米国：16%増）の売り上げは、ハイリスク患者におけるベネフィットが証明されたことで、引き続き堅調に売り上げを伸ばしています。“LIPS（Lescol Intervention Prevention Study）”の試験結果に基づいて、5月にFDAが「レスコール/ローコール」に対し、冠動脈疾患患者における血管形成術後の冠動脈イベントの二次予防に対する追加適応を承認しました。また、ALERT

(Assessment of Lescol in Renal Transplantation) 試験の結果が、6月に行われた米国移植学会議において発表され、腎移植患者における効果がさらに強調されました。

抗真菌薬「ラミシール」(19%増、現地通貨ベース：11%増、米国：17%増) は、4月に実施された新たなダイレクト・ツー・コンシューマー (DTC) と専門医向けのキャンペーンの結果、新規およびトータル処方箋の堅調な拡大につながりました。

湿疹治療薬「エリデル」は約1年前に上市されましたが、米国で湿疹治療処方箋のNo.1ブランドとして、そのリーディングポジションを拡大しました。上半期の全世界での売り上げは1億600万ドルに達しました。「エリデル」は最近スイスでも承認を取得し、これまでに全世界で20以上の市場で上市されています。

便秘型の過敏性腸症候群治療薬「ゼルノーム / ゼルマック」は、現在すでに30カ国で販売され、上半期の売り上げは5,800万ドル (米国：4,500万ドル) に達しました。米国では順調に売り上げを伸ばし、現在ターゲットとする医師の80%以上が処方しています。疾患の認知度を高めるための啓発キャンペーンが効果をあげており、全国的なDTCの実施計画が進められています。消化器病学会 (DDW : Digestive Disease Week) の20以上のセッションで主要なデータが発表され、「ゼルノーム」は多くの注目を集めました。

オンコロジー

ノバルティスのオンコロジービジネスはさらにマーケットシェアを拡大し、上半期の売り上げは米ドルベースで38%増 (現地通貨ベース：27%増) を達成しました。

慢性骨髄性白血病 (CML) と消化管間質腫瘍 (GIST) の治療薬「グリベック」 (102%増、現地通貨ベース：83%増、米国：43%増) は、ノバルティスで2番目の売り上げを誇る製品となりました。EUおよび米国でCMLの初発患者に対する第一選択薬として承認され、またGIST治療薬としての承認も取得し、多くの患者さんにベネフィットをもたらしています。新たに第一選択薬としての適応も含め、保険払い戻しプロセスが進展し、さらに確実なものとなりました。売り上げが予想を大きく上回ったのにつれて、健康保険に未加入で経済的に苦しい多くの患者さんに、廉価もしくは無料でグリベックを提供する、患者支援プログラムが適用されている患者さんの数は4,300人に達しました。

悪性腫瘍骨転移に伴う骨合併症の治療薬「ゾメタ」 (124%増、現地通貨ベース：112%増、米国：85%増) は、悪性腫瘍の骨転移治療のために最も多く処方されるビスフォスフォネート注射剤で、ダイナミックな成長を遂げ、4億1,200万ドルの売り上げを達成しました。「ゾメタ」はより効果が高く簡便で、「アレディア」からの置き換えが成功裏に進み、「ゾメタ / アレディア」の売上合計は25%増となりました。

末端肥大症およびカルチノイド症候群の治療薬「サンドスタチン」の上半期の売り上げは、13%増 (現地通貨ベース：6%増、米国：11%増) で3億3,800万ドルとなりました。より簡便で、1ヵ月1回投与の徐放性製剤LARが引き続き好調 (21%増、現地通貨ベース：11%増、米国：18%増) であったことが、この成長を牽引しました。

ホルモン過敏性の閉経後進行性乳がん治療の第一選択薬「フェマール」の上半期の売り上げは、29%増 (現地通貨ベース：16%増、米国：8%増) で1億800万ドルに

到達しました。今後の売り上げ推移は、補助療法の結果が明らかになるまでは緩やかになると見込まれています。

眼科

眼科ビジネスは「ピスダイン」の好調に牽引され、上半期の売り上げは14%増（現地通貨ベース：3%増）となり、米国での卸在庫の調整とアレルギーシーズンの不調に影響を受けた、他の眼科ブランドの売り上げの伸びの鈍化を相殺しました。

加齢黄斑変性の治療薬「ピスダイン」（22%増、現地通貨ベース：14%増、米国：2%増）は、引き続き堅調な成長を達成しました。ラテンアメリカやアジア太平洋地域での好調なマーケットへの浸透と堅調な売り上げ、ヨーロッパでの成長の維持が牽引しました。

6月には、ノバルティスはジェネンテックから、Lucentisの北米を除く全世界での独占的な開発および販売権を取得しました。Lucentisは、抗VEGF（Vascular Endothelial Growth Factor：血管内皮成長因子）抗体で、滲出型加齢黄斑変性の治療薬として、現在、臨床第 相試験段階にあります。

移植・免疫

移植・免疫ビジネスの売り上げは、ジェネリックや他のブランドの競合品による「ネオーラル」への攻勢により、8%減（現地通貨ベース：16%減）となりました。

免疫抑制剤「ネオーラル / サンディミュン」の売り上げ（7%減）は、2002年の米国での卸在庫、ジェネリックによる攻勢の増大、「ネオーラル」の低用量設定による使用などにより、2003年度第1および第2四半期ともに減少しました。EUでは、ドイツおよびイタリアにおける強制的な価格引下げにより売り上げが影響を受けましたが、一方で、ドイツとオーストリアでのジェネリックの攻勢は限定されました。日本では保険払い戻しが減少したにもかかわらず、成長の勢いは維持されました。

承認ハイライト

第2四半期、ノバルティスは重要な新薬の承認を取得し、これによって重篤なぜん息やパーキンソン病などに苦しむ患者さんに、新たな治療法を提供することが可能となりました。

5月には米国において、「グリベック」が小児の慢性骨髄性白血病治療薬として承認されました。

2003年前半にはヨーロッパの国々において、また5月には米国において「レスコールおよびレスコール XL錠（徐放性製剤）」が、冠動脈疾患患者における血管形成術後の冠動脈イベントの二次予防に対する追加適応の承認を取得しました。

パーキンソン病治療薬でエンタカポン、レボドパ、カルビドパの合剤「Stalevo（オリオン社からの導入品）」が、6月に米国のFDAから承認を取得し、またEUのCPMP（医薬品委員会）からも承認勧告を取得しました。

初のヒト化モノクローナル抗体である新規のぜん息治療薬「ソレア」も、6月に米国でFDAによる承認を取得しました。ヨーロッパでの申請に必要な試験が進行中で、ノバルティスは2004年の第1四半期にEUで再申請を行う予定です。

コンシューマーヘルス部門

サンド(ジェネリック)

ブランドを“サンド”とリニューアルしたジェネリックビジネスは、引き続きダイナミックな成長を遂げ、上半期の売り上げは87%増(現地通貨ベース:71%増)で14億6,300万ドルを記録しました。米国での医薬品ビジネスと1月に統合したレク社の好業績が大きく貢献しました。

OTC

OTC薬の売り上げは17%増(現地通貨ベース:6%増)で8億3,000万ドルとなりました。OTC薬の5つのグローバルブランドについては、禁煙補助薬「ニコチネル/ハビトロール」がヨーロッパでダイナミックに売り上げを伸ばし、また第2四半期において局所性抗真菌薬「ラミシール」の売り上げが、ヨーロッパとラテンアメリカでさらに加速しました。鎮痛・抗炎症薬「ボルタレン」の売り上げは、第2四半期のヨーロッパでの好調が寄与しました。

アニマルヘルス

アニマルヘルスの売り上げは8%増(現地通貨ベース:2%増)の3億3,900万ドルとなりました。年初は、主要マーケットでの経済的不安定と異常気象のため、低調なスタートを切ったアニマルヘルスですが、第2四半期において売り上げの伸びが加速しました。年頭より発売された新製品がその勢いを加速させ、総売上の5%を占めました。

コンパニオンアニマルビジネスでは新製品、特にイヌのアトピー性皮膚炎治療薬「アトピカ」、イヌの鎮痛薬「デラマックス」、イヌとネコの腸内寄生虫制御薬「ミルベマックス」が急速にカテゴリーでのシェアを獲得したことで売り上げを伸ばし、さらにイヌの心臓病および腎臓病の治療薬「フォルテコール」の好調が補完しました。

畜産動物用ビジネスの売り上げは、特にラテンアメリカ地域とアジア地域における、牛および羊における市場の好業績に牽引されました。これは、オーストラリアでの長引く干ばつによる影響と、ヨーロッパと米国における養豚市場の落ち込みによる影響を相殺しました。新規の畜産動物のハエに対する駆除薬「アギタ」が上市され、このカテゴリーにおけるノバルティスのリーダーシップを今後さらに強固なものとしていきます。

医療用栄養食品

医療用栄養食品(ニュートリション&サンテを含む)の売り上げは、ヨーロッパでの好業績と米国での業績の顕著な改善によって14%増(現地通貨ベース:1%増)で、4億100万ドルとなりました。

乳幼児用栄養食品

乳幼児用栄養食品の売り上げの成長は、第2四半期の好調に後押しされ、上半期は6億6,400万ドルを記録しました。米ドルベースでは1%減でしたが、現地通貨ベースでは2%増となりました。

チバビジョン

チバビジョンの売り上げは、革新的な使い捨てレンズおよび長期装用コンタクトレンズによる好調な業績と、レンズケアとサージカルレンズビジネスの成長に牽引され、14%増（現地通貨ベース：5%増）の6億2,700万ドルとなりました。

「フォーカスデイリーズ（1日使い捨てコンタクトレンズ）」と「フォーカス・ナイト&デイ（30日連続装用コンタクトレンズ）」は引き続きダイナミックな業績を達成し、特にヨーロッパと北米において二桁台の成長を遂げました。カラーコンタクトレンズ「フレッシュルック」は、新しいカラーコンタクトレンズ「フレッシュルック ディメンション」などのより進化した製品の市場導入とラインナップの拡充により、カテゴリーにおいて引き続き強力なリーダーとしてのポジションを確保しました。

レンズケア製品ビジネスは、北米での売り上げ成長と日本での「フレッシュルックケア」の引き続きの成功により、好転しています。

眼科用サージカルビジネスは、最近上市された多くの新製品の売り上げ増に支えられ、市場の伸びを上回るペースで着実な成長を遂げました。

上記の発表には、現時点での将来への予想と期待が一部含まれております。従って、その内容に関しては、また将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる可能性があることをご了解ください。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けております Form 20-Fをご参照ください。

2003 年の業績発表予定

10月20日	9ヵ月および第3四半期業績発表
11月19日	R&D デイ

2003年度上半期売り上げトップ 20 製品

製品名	適応	百万 ドル	億円	前年比% ドルベース	前年比% 現地通貨ベース
ディオバン/コディオバン	高血圧症	1 142	1 370	45	37
グリベック	慢性骨髄性白血病	515	618	102	83
ネオラル/サンディミュン	移植	497	596	-7	-16
ラミシール(グループ)	真菌症	416	499	19	11
ゾメタ	悪性腫瘍による骨合併症	412	494	124	112
ロトレル	高血圧症	394	473	33	33
レスコール/ローコール	高コレステロール血症	338	406	31	20
サンドスタチン(グループ)	末端肥大症	338	406	13	6
ボルトレン(グループ)	炎症/疼痛	288	346	-3	-9
チバセン/ロテンシン	高血圧症	222	266	-3	-7
トップ 10 製品トータル		4 562	5 474	31	22
ミアカルシック	骨粗しょう症	192	230	1	-4
トリレプタール	てんかん	178	214	53	51
エクセロン	アルツハイマー病	178	214	24	16
テグレートル	てんかん	175	210	-7	-12
ビスダイン	加齢黄斑変性	171	205	22	14
レボネックス /クロザリル	治療抵抗性の統合失調症	147	176	-6	-13
フォラジール	ぜん息	142	170	10	-6
ホルモン置換療法シリーズ	ホルモン置換	111	133	-24	-29
ファンビル	抗ウイルス剤	109	131	-4	-8
フェマーラ	乳がん	108	130	29	16
トップ 20 製品トータル		6 073	7 288	24	16
その他の製品		1 527	1 832	-1	-10
全製品トータル		7 600	9 120	18	10

2002年度の業績は、一部製品の他セクターへの移管の売り上げに基づいて集計し直した。
本リリースで用いられている日本円表示の金額は、すべて便宜的に1ドル=120円の為替レートで米ドル
を日本円に換算したものである。これらの換算金額は、このレートまたはその他のレートで米ドルの額を
実際に日本円に換えられる額を示すものと解してはならない。